

4. なぜ幼稚園で漢字を教えるか

昔、ある人が、「子猫持つ身の悩みは、それがやっぱり猫になることだ」と言って嘆いたということです。

チンパンジーをいくら教育しても、人語を操るようにはなりません。つまり、人間以外の動物は、いくら教育しても、反対に放っておいても、良くも悪くもならない、ということです。

ところが、人間は、狼に育てられると“狼”になるのです。顔かたちは人間でも、その心と行動とは、全く狼になってしまうのです。

人間以外の動物は、生れるとすぐ“独り立ち”します。鶏など、生れ出るや、一人前の顔をして走り回り、餌をついばんだりします。

それに比べると、人間の赤ちゃんはひどく無能力です。母親の乳房を吸うこと以外、何の能力もない、と言っても言い過ぎではないでしょう。

だから、人間は母親の胎内にいる期間こそ長いですが、生れ出るのは、他の動物に比べて“数年も早過ぎる”と言う学者があるほどです。なるほど、鶏を見たら、ひよこなど、人間では十歳以上の子供に当りましょ

しかし、人間は、“早く”生れ過ぎたために、万物の霊長になり得たのだ、とその学者は言います。つまり、無能力の状態で生れたために、“育て方”によって、狼になる可能性もあれば、霊長になる可能性もあるのだ、ということです。

昔から「三つ子の魂、百まで」と言われており、現代の脳生理学は、それを裏書きするように、「人間的な思考をつかさどっている脳は、生後三年間に、最も目覚しい成長を遂げる。三歳児の脳は、成人の脳の約65%にまで成熟している」と述べています。

もし、この三年間が母親の胎内で過ぎたなら、人間の子供は、能

コ ラ ム

部首 亢

手を広げ足を大きくふんばり、通せんぼをしている形を象った。抗の本字で、“ふせぐ”“こばむ”“さからう”。転じて“たかぶる”意味。

【航】 “抵抗”の亢と舟との会意形声字。“川の流にさからって舟を進める”こと。

【抗】 “こばむ”という意味の亢と手との会意形声字。“手をあげてふせぎ、こばむ”こと。「抵抗」「反抗」。

力的に、ほとんど個人差を持たなかつただろうと考えられます。そうではなくて、人類は、この三年間を与えられたために、大きな“可能性”を持つに至った、というわけです。

このことは、同時に、人類は大変な責任を神から与えられたことを意味します。より良くすることも出来る代りに、悪くすることが出来るのですから。




人類は、胎内で育てるべき三年間を、神に許されて、自らの手で、自らの好むように教育する責任を持ったのです。子供が、他の動物


のように、独り立ち出来るまで母親の胎内で育てられたら、今ほどには人類は“教育の責任”がなかったに違いありません。

ともかく、人間の赤ちゃんは、その育て方によって、最も素晴らしい動物にもなれる代りに、動物以下の醜い存在にもなれるのです。私たちは、神から許された“子供を教育する責任”の重大性を認識して、その責任を果たすことに努めなければなりません。

コラム

部首 韋

五は、止で止の反対の形。止はで、足の裏の象形。五を下向きにしたのが。つまり五とは足の向きが反対で、韋は“すれちがう”の本義。

【衛】 行と韋との会意形声字。行の古い形はで、道の象形。道の象形により“歩行”を表した指事字。“道を行ったり来たりする”が本義。英語のパトロール。

【偉】 “ちがう”という意味の韋と人とで普通の人とはちがった人、つまり“えらい”人という意味を表した会意形声字。

言葉と文字の教育

人間は、言葉を持つことによって、人間になり得た、ということは真実でしょう。しかし、人間は、音声言語から、視覚言語、つまり文字を持つことによって、急速に文化を発展させることが出来ました。

すぐに消えてしまい、近くにしか伝わらない“音声言語”に比べ、いつまでも保存でき、世界のどこにでも伝えられる“視覚言語”のお蔭で、私たちは、いかなる国の、いつの時代の偉人の思想をも受入れることが出来るようになりました。

この“言葉”と“文字”の働きとその価値とを、私たちは正當に評価しなくてはなりません。私たちは、あまりにもその思慧に馴れてしまって(例えば“空気”のように)、その価値を忘れてしまっているように思わ

れます。

私たちは、空気や水の価値を、金やダイヤモンド以下と考え誤ってはなりません。

確かに文字の価値は、個々の文字そのものにあるのではなく、それが“偉人の思想”を表現し、それを人に伝える点にあります。とはいえ、文字と思想との関係は、肉体と精神との関係に似ていて、私たちは、思想を尊重するがゆえに、文字の価値をも認めなければなりません。

漢字は経験を呼び起す信号

私たちが、幼稚園で漢字を教えていることに対して、「幼児に漢字を教えてどれだけの価値が

あるか、大切なのは思想であって、漢字ではない」……と言う人があります。本当にそうでしょうか。文章から漢字を取り去ったら、あとに何か残りますか。精神が大切なら、それを宿す肉体を大切にしなければならぬように、思想が大切なら、その思想を宿す漢字を大切にしなければなりません。

漢字は、私たちの知っている実体や行ったことのある経験を、頭の

中に思い起すための信号です。漢字を学習することは、実体を見たり、触れたり、経験して、その経験を漢字と結びつけ、漢字を見れば、すぐに実体や経験が頭の中に思い浮べられるようにすることです。

漢字が信号として速く大脳に伝わり、速くそれに反応できる、それが“頭が良い”ということなのです。それには、漢字と、それに対応する実体や経験との結び着きを良くすることが必要です。

私の言う“漢字教育”とは、この“漢字と、漢字に対応する実体や経験との結び着きを良くし、漢字が経験を呼び起すための信号として速く反応できるようにすること”なのです。

コラム



部首 扌

手を表した部首

【右】 “食事の時に食べ物を口に運ぶ手”のこと。

  右

【左】 “定規(工)を持つ手”。中国では右を上位とするので「左遷」は官位が下がること。

  左